

ひと あい えどがわ

No.38

発行日 / 2018.7.1
創刊日 / 2007.4.10

EDOGAWA
SINCE 2004
SOUGOU-JINSEI-DAIGAKU
<http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>

新川さくら館前にて【写真：国際14期 榎本清一】

江戸川総合人生大学 10月入学新入生募集!



学長 北野 大

**今年10月から始まる15期生を募集します。
仲間と学ぶ楽しさを実感しませんか?**

【募集期間】7月2日(月)～8月17日(金)

【申込資格】区内在住・在勤・在学の方

【授業料】年間3万円 【就学期間】2年間

【申し込み】区役所・各事務所・図書館・コミュニティ会館などにある
「入学案内」に添付されている入学願書に必要事項を記入の上、
江戸川総合人生大学へ郵送またはご持参ください。

【郵送先】〒133-0061 江戸川区篠崎町7-20-19 TEL: 03-3676-9075

学科については中面をご覧ください

地域のために自分の力を活かしてみたい。江戸川総合人生大学はそんな方を応援するために江戸川区が開設した大学です。(※学校教育法で定める正規の大学ではありません。)

専門科目だけではない！充実の授業内容。

江戸川総合人生大学では、1年次に、それぞれの学科の専門科目のほかに、共通基礎科目を履修します。

「えどがわ入門」は必修科目で、江戸川区の基礎的な事項の現状と課題を学びます。

「地球環境を考える身近な活動」「みんなで創る安全・安心」「くらしと健康」「カウンセリングの基礎」の4科目は選択科目(2科目を選択)で、生活に身近なテーマについて幅広い知識を身につけます。

これらの共通基礎科目は、わたしたちの生活に密着したテーマが学びの対象になっていることから、たくさんの“気づき”を体験することができます。今回は、在校生から、学びから得た“気づき”を語ってもらいました。

共通基礎科目(必修)

えどがわ入門

「えどがわ入門」は、産業、子育て、福祉、まちづくり、環境、教育など、江戸川区の関心事について、歴史・現状・課題を理解し、地域の一員として、いま何が求められているかを学びます。

地方から江戸川区に移住した私は、この授業で、やっとこのまちの概略が分かったかなと思いました。

都心から至近でありながら水と緑のあふれるまちになった背景には、「ゆたかな心、地にみどり」をスローガンに、50年にわたり一貫して取り組んできた区政の努力があったことを知りました。その結果が「美(うま)し国づくり景観大賞」の受賞となり、区民として誇りに思います。

親水公園や緑道の整備は、地域の町会、自治会等の活動と一体となって推進されています。人と人とのつながりあい、すくすくスクール、なごみの家などボランティア活動が多いのに驚きました。自助、共助、特に地域との連携はその様な背景で根付いたと感じました。

私もこのまちを第二の故郷とするためには何かに参加し、地域とのつながりを持たねばならないと感じています。

まち14期 多久島 重

私は江戸川区で生まれ育ち、長年住んできました。人生大学に入り共通基礎科目である「えどがわ入門」の授業を受けて、故郷でもある江戸川区のことを多分野にわたる講師の方々から、お話を聞かせていただきました。

そして区内産業の技、下町商人、都市農業等々、いろいろなことが良く分かりました。また、子育てしやすい環境づくりや次世代育成支援についても学び、感動しました。

国際コミュニティ学科の授業で難民申請をされているアンゴラの青年が来ました。日本の印象について「安全でパラダイス」という答えがかえってきた時に、江戸川区についてもどんなに豊かで恵まれていることかと、改めて気づきました。

そしていろいろな角度から江戸川区のことを学びました。長年住んでいても分からなかったり知らないことが多かったので、授業を受けてこれからの人生が少しでも豊かに地域と共に歩んでいけたらと思います。

国際14期 山本 洋子



江戸川区に住んで22年。現在の地で二人の子を育てました。自分が住んでいる地域をほんの少し知っている程度でしたが、今回、「えどがわ入門」を受講し、区内の産業・子育て支援・環境・教育問題等、初めて知る内容が多々ありました。

講師の先生方(北野学長・多田区長・区役所の各部長)の講義内容はより具体的でわかりやすく、新たな知識を得ることがたくさんありました。回を重ねるごとに、授業に引き込まれていきました。

特に、江戸川区に住む子育て中の保護者の方々には、「未来を担う人づくり」「教育の現場から」の授業を、受講していただきたいと強く感じました。

子育て中の保護者の方々が、「子育てに関する施策」を様々な角度から捉えることで、現状と課題が身近な問題として浮き彫りになり、それを行政とともに解決していくことができると思いました。これらの活動や取り組みは、次代を担う子どもたちに受け継がれていくものと考えます。

子ども14期 北山 多鶴子



15年前に、江東区から江戸川区に転居してきました。他の区へ通勤し、子どもたちも学童期を過ぎていました。さらに住居が江東区との境でしたので、江戸川区の住民という実感は持てないでいました。

人生大学に入学し、「えどがわ入門」の授業で、区の財政、福祉、教育、子育て、環境、危機管理など様々な分野の話を聞くことができました。

介護・健康学科に在籍しているので、福祉の分野に一番関心がありました。福祉関係が区の財政の50%超を占めているのには驚きました。さらに介護保険制度を推し進めるのに、地元住民の力を積極的に活用し、多くの方が参加されているのを知りました。

次第に江戸川区民の自覚が出てきました。地域の活動に少しでも役立てるよう活動してみようと思うようになってきました。

介護14期 瀧石 令子

いま、共通基礎科目が面白い、役に立つ！

共通基礎科

地球環境を考える身近な活動

「地球環境を考える身近な活動」は、地球環境の汚染や破壊の問題を、日々の暮らしの中で見つめ直し、環境問題の解決のために身近なところから何を考え活動していけばよいかを学びます。

「地球温暖化」「地球環境」に関する話題は尽きません。江戸川区に生まれ60年以上暮らしてきた私が子どもだった頃には身の回りに溢れるほどあった自然(お世辞にも爽やかなものだったとは言えませんが)は、区民生活レベルの向上との引き換えに、徐々に失われていきました。

しかし近年、江戸川区はその失われた自然を人工的に再生する挑戦を続けてきました。その成果の代表例が、校外授業で見学・観察した、葛西海浜公園の「人工渚」であり、一之江境川親水公園です。

これらの人工創生環境は、年月を経るとともに徐々に周囲の環境に融和し、いまでは本物の自然環境へと再生しています。一度は失われた自然も、環境保全の維持に取り組む人々の努力の継承によって、再び私たちの生活に戻ってきてくれています。

自然環境の素晴らしさと大切さをあらためて認識させてくれた、楽しく有意義な授業でした。

国際13期 飯塚 精一



「自然エネルギーの活用」についての講義の中で、「非電化思考」に関心を持ったので、その活動拠点である『非電化工房(那須町)』の見学会に参加しました。

敷地の中を川が流れ、中央の池では鯉が泳ぎ、周りに幾つものハウス(非電化で冬暖かく夏涼しい)が建てられ、池の奥には菜園が広がっています。多くの非電化製品を見学し、心惹かれるものばかりでした。特に「非電化冷蔵庫」は秀逸で、真夏の昼でも庫内を7~8℃に維持出来るとのこと。モンゴルの遊牧民の暮らしを格段に豊かにしたそうです。

丁寧な説明を聞きながら1時間半ほど見学した後、挽きたての珈琲で一休み。高原の清々しい空気の中で格別の美味しさでした。

締めは、代表者である藤村靖之氏の講話。穏やかな口調ではあるが、環境問題を解決する具体的な方法を明示し、確信を持って語り掛ける姿に深い感銘を受けました。

まち14期 田村 誠二郎



みんなで創る安全・安心

「みんなで創る安全・安心」は、区民が日々安心して暮らすため江戸川区が取り組んでいる防犯・防災対策の現状と課題を知るとともに、一区民としてできる安全・安心への備えについて考えます。

東日本大震災や集中豪雨などの自然災害、危険運転による人災など、ニュースで流れるたびに安全や安心について考えさせられていました。

江戸川区内でも、ゲリラ豪雨などの災害、自転車の盗難、交通事故、振り込め詐欺などの被害が多発しています。

優しく穏やかな‘まち’にするためには、安全・安心こそその根底をなす一大要素であると考えます。

授業では、過去の資料から安全対策を学びました。また、区役所内の危機管理室の見学で区の防災への取り組みを知り、消防署では防災訓練(起震車・消火訓練・AED)を体験するなど、普段では経験できないことが体験できました。

この授業で学んだこと、親から聞いた体験談、自分自身が経験したことを活かし、防犯・防災の観点から、一人ひとりがどのように備え、何をすればよいかを次世代に伝えていくことが大切だと思いました。

まち13期 田中 秀和



水と緑の江戸川区。区内には公園や散歩道、区民が集う施設が随所にあり、四季折々の草木や花を愛でながら子育て世代からご高齢の方までが生活をしています。

私は江戸川区で生まれ育ちました。子どもの頃は、雨が降れば床下浸水、台風の季節になれば川の決壊を心配し、家の外には畳を上げる丸太を用意していました。父は関東大震災を経験したため、日常のほんの少しの揺れでも、玄関・窓・障子を開けて出口を確保していました。

「安全・安心」の授業を受講して、日本各地での自然災害の発生率や発生場所、被害の程度、復興に向けてのソフト面(行政の対応・ボランティア活動の在り方・取り巻く人間関係等)の難しさを数値やデータを通して学びました。

我が家では「いざという時の家族会議」を開き、避難場所・連絡場所(誰の家)・食料等を確認したところです。

子ども14期 栗原 國子



在校生から“感動の声”をお伝えします。

科目（選択）

くらしと健康

「くらしと健康」は、医師や専門家から、ひとのカラダやこころの健康、食事と栄養の関係、口腔ケアなどを講義によって学び、健康体操や救急救命法は、自らが実践・体験することにより学びます。

子ども・子育て応援学科13期 みなさんに、受講の感想を聞きました。

「腸内の環境をキレイにすることの大切さ、善玉菌を増やす食事の作り方、野菜を多く摂ることの重要さなど、貴重で有益な話が聞けました。」「口腔ケアが体全体の病気の予防になること、口と歯の健康が介護予防になることなどを教わり勉強になりました。」「AEDの使い方を実習。最初は緊張してとまどいでしたが、最後にはAEDを完璧に使えるようになりました(と思う)。」「AEDの操作を体験できたことで、いざというときにAEDを使う勇気が出るかもしれない。」など。

このほかにも、医療の専門家からの体や健康に関するわかりやすい講義、実践講義を受けることができとても勉強になった、という内容の感想が多く寄せられました。

子ども13期 志賀 直照



「こころの健康」というテーマの講義で、「子どもの発達障がいを考える」ということについて、掘り下げた解説がありました。大変興味深く、かつ深刻な問題と受け止めました。

子どもの成長に伴う発達障がいは、個々の子どもの個性によって異なり、また、育て方によっても早い、遅い、の差はあるのだと思います。しかし発達障がいというのは個性でもなく、育て方の問題でもないそうです。また、発達障がいの本質的な原因が体の中のどこにあるのかについては、現在の医学でも解り難いそうです。

わたしたち一人ひとりが子どもの行動や情緒や生活のリズムなどをよく観察して、発達障がいを見分けていくことが大切だと解りました。その子の人生のスパンで考えて、幼児期なら発達支援システムへつなげ、学童期であれば特別支援教育につなげ、成人期であれば就労支援のしくみへつなげていこうと思いました。みんな一緒に生きていくために。

介護14期

川崎 富美雄 松瀬 元春



カウンセリングの基礎

「カウンセリングの基礎」は、仕事や人間関係に悩む人に寄り添い、自分と向き合うことで自らが解決へと導かせる“カウンセリング”の方法を、日常生活のさまざまな場面を設定し学びます。

講座は、カウンセリングの意味を聞き「自分を知る」「聴く態度」「技法」を体験的に学びます。毎回メンバーとカウンセリング場面が換わり「聴き手」「話し手」「観察者」の役を輪番で行い検討します。

体験学習を通して、自分の心を開いて語ること、他者の気持ちに寄り添い話を聴くことを身に付けました。

今は、学んだことを思い出しながら、身内を含め他者とトラブルを起こさないよう努めています。

介護13期 櫻井 昇

日常生活の中で、忙しかったり疲れていたりすると、どうしてもイライラして感情的になり、身近な人にストレスをぶつけてしまうことがあります。授業の一つに、アサーションの考え方がありました。“自分も相手も大切”という自己表現です。感情のままにぶつけるのではなく、相手の事も尊重しつつ自分の言葉で考えを伝えるということでした。今まで自分と向き合う時間がなかったので、自分を知るきっかけになりました。

介護13期 松島 珠美



私たちは多かれ少なかれ何らかの悩みを抱えています。それは、自分自身も、日々接している家族や友人も同じです。

人は、相談される自分と相談を持ちかけてきた人との偶然の出会いの中で、相談者の人生を変えることが出来るのでしょうか。

授業では、日常生活で起こりうる場面を想定し、相談者にカウンセリング・マインドをもって接する方法を学びます。

相談者と心を通わせるための「傾聴」からカウンセリングは始まります。気持ちに寄り添った傾聴により、相談者はこころを開き、やがて自らを見つめ直し、こころの悩みが癒されるようになります。

長年こころに悩まされ抱えていた私は、「カウンセリングの基礎」を受講して、その不安を解消することができ、こころが温まる思いが残りました。

国際14期 榎本 清一



7月2日(月)より新入生の募集を開始します！

学科紹介

さまざまな知識や経験を持つ方々が、年齢を超えて学んでいます。
学生生活をもう一度味わってみませんか？

江戸川まちづくり学科



「まちづくり」を、多様な分野・視点から考えます。
ワークショップとフィールドワークの手法を併用し「まちづくり」への関わり方を体験的に学習します。

子育てささえあい学科 注)



子どもや子どもたちを取り巻く環境を理解し、
私たち大人が、どのように子どもたちに向き合い
関わるか、またそのためには、家庭や地域でどの
ような取り組みが必要かを考えていきます。

注) 平成30年10月入学の15期生より子ども・子育て応援学科
の名称を変更します。

国際コミュニティ学科



地域での国際交流や外国人との共生のあり方について考え、
各国の文化や事情、在住外国人をとりまく現状・課題などに理解を深めていきます。

介護・健康学科



高齢社会の中、自分たちが暮らす地域社会は今
どんな課題を抱えているか、そしてそれを解決する
にはどうしたらいいか。

住み慣れた地域で安心して暮らせる仕組みを学びます。

★応募方法は、表紙をご覧ください

第13回 江戸川総合人生大学祭

地域とともに
～あなたの一步、みんなの一步～

入場
無料

平成30年7月21日(土) 10時～16時

会場：タワーホール船堀

1階展示ホール1・2
3階産業振興センター

スタンプラリーで
プレゼントを進呈！！



卒業生のボランティア活動紹介

どんぐり

小さなお子さんの心身ともの成長を手助けしたいとの願いから、平成18年12月に創立しました。

現在の活動の中心は、船堀幼稚園の4歳～6歳児を対象とした、自然の恵みを生かした伝統的な遊び・冒険や行事の伝承です。

秋には、ドングリを使つてのネックレス作り。表面に好きな絵を描いた後、キリでドングリに穴を開け、ボンドで固定して糸を通せば、手製のネックレスの完成です。キリの先はとがっていて危険なため、取り扱いには注意が必要。また、ドングリは表面がつるつるして、小さなお子さんには持ちにくいもの。説明を事前にすることで、あわてずに慎重に作業を進めていきます。

冬には、松ぼっくりでクリスマスツリーを作ります。

春には、藍染め。小さな手を藍色に染めての小袋作り。作品を完成させた後には、笑顔があふれます。

自然界にはたくさんのわくわくするような不思議がある一方、危険も潜んでいます。怖がらずに自然と向き合うことで多くのことが学べます。わたしたちの活動を通して、子どもたちが自分たちの周りにある自然界に好奇心を抱き、自然界を理解する気持ちを養ってくれることを願っています。

連絡先：代表 山田 志津子
03-5658-5295
s_nagaei@yahoo.co.jp



作業中



ドングリのネックレス

音の会

平成30年3月18日に、一之江抹香亭で開催された「音の会(ねのかい)」の「箏の調べを楽しむ会」(毎月第3日曜日の13時より開催。参加費は無料。)に参加し、同会取材しました。

「音の会」は平成18年5月に、人生大学卒業生の箏演奏経験者を中心に、マンドリンとフルートの演奏者とともに発会。現在の主な活動は、江戸川区内の小学校の授業やすすくスクールで演奏と指導を、軽度知的障がい者サークル、高齢者ホームや、一之江抹香亭茶会で演奏を行っています。

また、「江戸川アリスの会」(平成17年7月設立。日本語学校に通う留学生との交流を図る会)とともに、外国の方々に、茶道や琴演奏体験などを通じて日本文化を紹介し、国際交流活動も行っています。

会員の定例会は、月4回、清新町ボランティア活動室や江戸川コミュニティ会館を会場に開催しています。

日本古来の音色に魅せられ、余韻に浸りながら、すがすがしい気持ちで帰路につきました。

(取材：介護13期 櫻井 昇 松島 珠美)

連絡先：井上 文子
03-3677-8042
kotokotofumiko@amail.plala.or.jp



一之江抹香亭



茶会での演奏

同窓会の窓



今年(2018年)は伊能忠敬没後200年にあたります。佐原の実業家であった忠敬は、50歳で隠居して江戸深川に移り住み、測量と天体観測を学びます。そして、73歳までの生涯をかけて全国測量を行い、日本全図を作り上げました。この行動に、はじめは懐疑的であった幕府や社会も、本人の創造力や信念・情熱に動かされます。時代は前後しますが、サミュエル・ウルマンの有名な詩「YOUTH(青春)」にうたわれている「心の持ちよう」を常に持ち続けたからこそ出来たのだと思います。

江戸川総合人生大学同窓会は、やっと10歳を越したばかりです。文字通り「青春の心」を持って、会員同士の絆を太くし、地域社会との繋がりを強め、地域に貢献できるよう活動していきたいと思っています。

同窓会会長 前田 直義(国際9期)

同窓会ホームページ <https://www.jinseidaigaku-dousoukai.net/>
メールアドレス info@jinseidaigaku-dousoukai.net

編集後記

環境の整備が進むにつれて、江戸川区の過去の災害や地域の様子などの話を聴く機会も少なくなってきました。

人生大学では、今回特集した「共通基礎科目」も受講できます。

授業では、区の過去・現在・未来に関する貴重な情報が得られます。

いよいよ人生大学第15期生の募集開始です。今号の特集記事が、みなさまが応募の検討をされる際の一助となれば幸いです。

副編集長 大野 正夫(国際13期)

編集：「ひと あい えどがわ」編集委員

【13期生】 大場千恵子、柴田正美(まち) 大野正夫、黒田健司(国際)
志賀直照、松本政子(子ども) 櫻井昇、松島珠美(介護)

【14期生】 多久島重、田村誠二郎(まち) 榎本清一、山本洋子(国際)
栗原國子、西山弘(子ども) 川崎富美雄、松瀬元春(介護)